



PEACEBOAT  おりづるプロジェクト

ヒバクシャ地球一周 証言の航海

Global Voyage for a Nuclear-Free World

PeaceBoat Hibakusha Project

ピースボート

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1

TEL03-3363-7561 FAX03-3363-7562

第5回「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」

プロジェクトの概要と主な成果

- クルーズ 第75回ピースボート「地球一周の船旅」
- 期 間 2012年1月24日(火)～5月4日(金)
- 寄港地数 21カ国22都市
- 使用客船 オセアニック号
- 参加被爆者 10名 (内訳: 広島被爆5名 長崎被爆5名)
- 証言活動 12寄港地にて実施
- メディア掲載 海外10カ国50社以上
- プロジェクト通称 おりづるプロジェクト
- 主な成果
 - ①「グローバル・ヒバクシャ」として世界の核被害者との協力を強化
 - ・ キューバにて「グローバル・ヒバクシャ・フォーラム」を開催
広島・長崎、チェルノブイリ・福島原発の事故、タヒチの核実験の経験を共有
フィデル・カストロ前国家評議会議長と面会
現在、キューバ政府とともに被爆者らの証言をまとめた書籍(西語)制作中
 - ・ チェルノブイリ原発を訪問・ベラルーシ(ゴメリ)の住民と交流
広島・長崎の経験をもとに住民の健康や補償問題などについて意見交換
原爆医療に携わってきた医師らが同行。福島への支援のための示唆も
帰国後、被爆者がチェルノブイリ写真展を実施
 - ・ フランスやイタリアにて原発関連集会に参加し、脱原発を訴え
 - ②中東の非核地帯化への気運を促進
 - ・ 中東非核地帯国際市民会議「ホライズン2012」の実施
2012年末にフィンランドで開催される国際会議に向け勧告書を発表
(※添付資料参照)
2012年9月にイスラエルへ被爆者の派遣を決定
 - ・ サウジアラビア政府高官を招いての証言会を実施
 - ③今後の継承活動の担い手の創出
 - ・ 若年被爆者による写真展の開催(2012年5月22日～6月10日ナガサキピースミュージアム)
 - ・ 乗船した若者らによる帰国後の広島・長崎スタディーツアー(2012年5月11日～5月14日)
 - ・ 被爆者および一般参加の若者たちによる広島・長崎での報告会実施(8月5日広島、8日長崎)

●詳細

HP <http://www.peaceboat.org/info/hibakusha/index.shtml>

ブログ <http://ameblo.jp/hibakushaglobal/>

●参加被爆者略歴



喜多村 隆昭(きたむら たかあき)

長崎被爆 1929.1.3生まれ 被爆当時16歳

長崎県長崎市在住

原爆投下翌日、救護隊として長崎市に入市し被爆。救護活動中、原爆被害の惨劇を目の当たりにする。救護活動が終了し数年後、歯茎からの出血など原爆の影響と思われる症状が半年ほど続いた。戦後は長崎大学および大学付属病院に文部事務官として勤務。これまで舌癌や上顎癌などを煩い、手術を受けた。



李 鐘根(り しょうこん)

広島被爆 1929.8.15生まれ 被爆当時16歳

広島県広島市在住

在日韓国人二世。父親は日韓併合により、日本に強制連行された。日本での生活ができるようになったところで、母親を呼び寄せ、後に自身が生まれる。被爆当時、自身は日本国有鉄道に勤務しており、通勤途中で被爆。両親は入市被爆し、長く病床につく。



原口 貞夫(はらぐち さだお)

長崎被爆 1931.6.25生まれ 被爆当時14歳

長崎県長崎市在住

爆心地から約3 km 離れた自宅付近で被爆。戦前から軍国教育を受けてきたが、終戦後その教育が誤ったものであったと気づき、教育の大切さと恐ろしさを学んだ。その後英語教師として38年間私立高校に勤務。生徒たちには自己紹介とともに必ず被爆体験を語り続けてきた。その生徒数は5000名以上にも及ぶ。



松長 静子(まつなが しずこ)

広島被爆 1932.1.1生まれ 被爆当時13歳

広島県広島市在住

被爆当時女学校2年生。建物疎開作業中に被爆。熱線により顔や首などに火傷を負う。同居していた祖母は爆風により倒れたタンスの下敷きになりその約1ヶ月後に他界。自身は放射能の影響と思われる急性症状に冒され、半年間病床についたが奇跡的に回復。たくさん亡くなった同級生のためにもと、1985年より被爆証言活動を開始。



中村 博(なかむら ひろし)

広島被爆 1932.1.5生まれ 被爆当時13歳

広島県府中市在住

戦時中は学徒動員として日本国有鉄道に勤務。爆心地から1.8 km 地点にあった寮内にて被爆。大きな外傷を負わなかったため、ほかの被爆者の救護活動に従事。また、原爆で亡くなった方々の遺体収容作業にも携わる。被爆一ヶ月後より歯茎からの出血や脱毛が始まり、その後も白血球減少などにより入退院を繰り返す。広島県府中市原爆被害者の会会長。



山田 一美(やまだ かずみ)

長崎被爆 1933.8.3生まれ 被爆当時12歳

長崎県長崎市在住

父親の仕事のため中国東北部で生まれるが、小学生のころ長崎にある祖母方に住むため帰国。爆心地から2.3 km 地点にて被爆。退職を機に証言活動を開始。被害者意識の強調だけでなく、日本が行った加害の歴史もふまえて対話の重要性、戦争のない社会の構築を訴える。長崎平和推進協会平和案内人及び継承部に所属。



増川 雅一(ますかわ まさかず)

長崎被爆 1941.4.2生まれ 被爆当時4歳

長崎県長崎市在住

爆心地から約3.5 km 地点で被爆。祖父と父親は爆心地付近で被爆、遺体は見つかっていない。原爆との因果関係は不明だが、37歳のとき硬膜内髄外腫瘍を煩う。長崎放送(株)に勤務し、被爆証言の番組制作などに尽力。現在は、人間や自然の素晴らしさを切り口に平和を語り継ぐことをテーマにした「ナガサキピースミュージアム」専務理事に就任、活動を続けている。



永島 三歳(ながしま みとし)

広島被爆 1941.4.13生まれ 被爆当時4歳

大分県臼杵市在住

爆心地より2 km 地点にて左後方より被爆し、左手と両足後方に熱傷を追う。現在もその痕跡が残る。父親はすでに中国で戦死しており、母親と祖父母は被爆したが、幸いにも大きな健康被害は受けることがなかった。大分県原爆被害者団体協議会監査役兼、大分県被爆者団体臼杵市支部長。



石川 律子(いしかわ りつこ)

広島被爆 1944.1.15生まれ 被爆当時1歳

広島県広島市在住

三姉妹の次女として生まれる。原爆により爆心地付近の国民学校に勤務していた父親と同居していた叔母の二人が行方不明となる。その7年後に母親が病死。そのため三姉妹は祖母によって育てられる。小学校教員として教育現場にて平和教育に尽力。



小川 忠義(おがわ ただよし)

長崎被爆 1944.3.22生まれ 被爆当時1歳

長崎県長崎市在住

原爆投下当日は疎開していたが、1週間後自宅の状況確認のため入市し、被爆。自身の被爆当時の記憶はないが、被爆者の最後世代として証言を継承していけるようにと今回の航海に参加。また、現在は自身の趣味である写真を生かし、毎年8月9日11時2分の長崎市内の様子を写真に収める活動を行っている。

●寄港地での活動

2月6日 パペーテ(タヒチ)

フランスによる核実験の被害者団体「モルロア・エ・タトゥ(モルロアと私たち)」との証言交流会を実施。核実験の被害に対する補償についてフランス政府との交渉が難航している現状を共有。在外被爆者の補償獲得のプロセスについて韓国原爆被害者協会名誉会長・郭貴勲氏(横浜～タヒチ間で乗船)が説明し意見交換が行われた。

2月20日 カヤオ(ペルー)

ペルーのNGO アレナ・イ・エステラスにて人権団体青年部の若者らと証言交流会を実施。被爆者からの証言を行うとともにペルーで1980年代に起きた政治暴力の証言を伺い、意見交換を行った。平和市長会議加盟都市であるリマ市サン・ボルハ区長を表敬訪問。非核へむけての活動の展望について協議。

3月1日 ハバナ(キューバ)

ハバナ大学にて証言交流会を実施。約20名ほどの学生らと意見交換。
キューバ政府と共催でグローバル・ヒバクシャ・フォーラムを実施。800名以上が参加。
登壇者 フィデル・カストロ前国家評議会議長
広島被爆者 中村博
福島大学准教授 丹波史紀
「モルロア・エ・タトゥ」代表 ローラン・オルダム (タヒチ)
医師 フリオ・メディナ (チェルノブイリ原発事故被害者の医療に従事)
ピースボート共同代表 吉岡達也

3月12日 ダカール(セネガル)

奴隷貿易の拠点となった世界遺産に登録されているゴレ島を訪問。かつて奴隷の収容に使われていた「奴隷の家」を訪問し、奴隷貿易の歴史について学ぶ。また、ゴレ島のオーグスタン・センゴール区長と面会し、市長含め学生や一般市民を対象に証言交流会を実施。質疑応答の際には、高校生らからアメリカに対する感情や意見を問われた。

3月20日 バルセロナ(スペイン)

カタルーニャ州政府の議員や議長ら、カウンターパートナーである平和財団と意見交換会を実施。原発が存在するスペインでは特に原発事故の可能性を懸念し、脱原発にむけた活発な意見交換が行われた。また、ピャ・バルメス学校にて中学生を対象にした証言会も実施。中学生らからは「廃墟の中からのように復興してきたのか」などといったの質問があがった。

3月21日 マルセイユ(フランス)

原発大国であるフランスでは、自家発電により運営し持続可能な生活を提案するエコハウス・ルバタスセンターを訪問。そこで行われた脱原発討論集會に参加。この施設の近くにある国際熱核融合実験炉(イーター)についてプレゼンテーションなどが行われ、この実験の共同事業国として日本が参加していることなどを学んだ。

3月23日～24日 チビタベッキア(イタリア)

サピエンツァ・ローマ大学では約200名の大学生が、パソリニ図書館では約120名ほどの中学生が証言会に参加。両会場共に質問が次々とあげられ、質疑応答だけで1時間を費やすほど活発で充実した証言会となった。また中学生らからは千羽鶴が贈られ、被爆者からは広島の中学生在が折った千羽鶴が中学生に贈られるという交流が生まれた。また、文学カフェでは緑の党と共催で脱原発シンポジウム開催。

3月27日 ピレウス(ギリシャ)

アテネ第76・138小学校にて生徒や親、地域住民が参加し証言会を実施。このプログラムには、東北の復興を願い、また世界各地から贈られた震災への支援に対する感謝の気持ちを込めて宮城県石巻市の人々とNPO「オンザロード」が造った復興神輿も同行した。証言会のために集まった現地の人々とともに復興を願い、小学校の周りを担いでまわるといった交流が生まれた。

4月1日～4月7日 オデッサ(ウクライナ)～ポートサイド(エジプト) チェルノブイリ特別プログラム実施

チェルノブイリ原発を中心に、原発から3kmほどのところにありゴースタウンとなったプリピャチ市やその周辺を見学。また原発から280kmほど離れたベラルーシのゴメリでは医療従事者や住民との交流会を実施。このプログラムには日本の原爆医療に携わってきた医師が同行し、住民らとの意見交換の際には、健康被害や被害に対する補償の問題などについて意見交換が行われた。

4月9日 ジェッダ(サウジアラビア)

サウジアラビア政府高官や市民、学生らおよそ200名がオセアニック号に乗船。船内では証言交流会を実施。また、現地の学生らからは非核への思いなどがつづられたスピーチが贈られた。政府関係者は中東の非核地帯を目指し努力すると明言。船内ではその他にも文化交流などが行われた。

4月19日 コーチン(インド)

「エルナクラム銀行員芸術運動」のメンバーが受け入れ団体となりコーチン市と協力して証言会を実施。この証言会では、被爆当時の記憶がなく証言経験がない若年被爆者が、これまでの航海で経験豊かな被爆者から学んだことを生かし、初めての証言を行った。

4月24日 シンガポール

アンダーソン高校にて証言交流会を実施。同高校以外に近隣の高校6校からも生徒が参加し300名ほどの学生が証言に耳を傾けた。会場へ入った瞬間には盛大な拍手がおき、また証言会終了後には多くの学生が会場に残って被爆者に質問をしたり写真を撮ったりといった交流が生まれ、多くの被爆者にとってとても印象に残る証言会となった。

※当初予定していた台湾でのプログラムは、船の運航スケジュールの変更により、中止となりました。

そのほかの寄港地 :

クリストバル(パナマ)／モンテゴベイ(ジャマイカ)／ラスパルマス(カナリア諸島(スペイン))／カサブランカ(モロッコ)／モンテカルロ(モナコ)／イスタンブール(トルコ)／ブルガス(ブルガリア)／コンスタンツァ(ルーマニア)／ポートサイド(エジプト)／基隆(台湾)

●船内での活動

《企画一覧》

1. 証言を伝える

- 講座:「ヒバクシャは海を越えて」(1/28)
- 講座:「ヒバクシャはどこにいてもヒバクシャ」(1/30)
- 証言会:「おりづる証言会」(2/4)
- 証言会:「おりづる証言会」(2/8)
- 証言会:「おりづる証言会」(3/3)
- 証言会:「おりづる証言会」(3/6)
- 写真展:「3.11にシャッターを切ろう」(3/11)
- 写真展:「3.11にシャッターを切ろう 写真集めます」(3/19)
- 写真展:「8月9日11時2分写真展」(4/25~4/27)
- 証言会:「おりづる証言会〜ファイナル〜」(4/27)

2. プロジェクトの意義や成果を一般参加者と共有する

- 講座:「過去から未来へ〜世界のヒバクシャから学ぶ〜」(1/26)
- 講座:「魅せます!おりづるプロジェクト」(1/27)
- ワークショップ:「おりづる Presents 船内クイズラリー」(1/30)
- 映画上映:「ヒバクシャとボクの旅」(2/1)
- 報告会:「タヒチ活動報告会」(2/9)
- 展示:「おりづるプロジェクト展示」(2/12)
- 報告会:「ペルー活動報告会」(2/23)
- 講座:「おりづる」ってなあに?」(2/23)
- 展示:「おりづるプロジェクト展示」(2/24)
- 報告会:「おりづるが「キューバ」に出会った」(3/5)
- 報告会:「おりづるが「セネガル」に出会った」(3/16)
- 報告会:「おりづるがヨーロッパに出会った」(4/8)
- 報告会:「チェルノブイリ報告会」(4/25)
- 報告会:「おりづる報告会 おりづるの地球の歩き方〜広島・長崎から世界へ〜」(4/30)

3. 被爆者と一般参加者の交流を深める

- しゃべり場:「郭さんと話そう!」(2/5)
- しゃべり場:「おしゃべりチェルシー」(2/22)
- 交流会:「おりづるカフェ」(2/22)
- しゃべり場「おしゃべりチェルシー」(3/5)
- 交流会:「おりづるカフェ」(4/14)
- 交流会:「おりづるカフェ」(4/15)
- 交流会:「おりづると話そう」(4/26)

4. 原発を含めた世界の核問題への理解を深める

ドキュメンタリー上映:「南京と長崎のはざまで」(2/9)

映画上映:「チェルシアター 原発編」(2/22)

講座:「原発はいらない」(2/23)

講座:「チェルノブイリがもたらしたもの」(2/25)

映画上映:「チェルシアター 核編」(3/5)

講座:「原発について簡単に知りたいあなたへ」(3/5)

ゼミ:「おりづるゼミ」(3/8)

講座:「放射線と生きる～広島・長崎から福島へ～」(3/9)

しゃべり場:「ジャックブロードウエー」(3/11)

ゼミ:「おりづるゼミ」(3/18)

講座:「中東非核会議～知りたい!聞きたい!中東の今～」(3/26)

ゼミ:「おりづるゼミ」(4/4)

ゼミ:「おりづるゼミ」(4/10)

ゼミ:「おりづるゼミ」(4/13)

ゼミ:「おりづるゼミ」(4/20)

講座:「Peace Studies って知ってる?～帰国後の私たちにできること～」(4/25)

ドキュメンタリー上映:「忘れられた使者たち」(4/27)

映画上映:「チェルシアターファイナル 核編」(4/28)

講座:「カイル先生のアメリカによる原爆投下」(4/29)



Les anti-nucléaire japonais du "Peace Boat" font escale à Peyre

Hier, les rescapés du bombardement de Nagasaki ont évoqué les risques et dégâts du nucléaire tant mis en avant par les défenseurs de la centrale de Tricastin.

Mais aussi les participants japonais du "Peace Boat" ont évoqué les risques et dégâts du nucléaire tant mis en avant par les défenseurs de la centrale de Tricastin. Hier, les rescapés du bombardement de Nagasaki ont évoqué les risques et dégâts du nucléaire tant mis en avant par les défenseurs de la centrale de Tricastin.

TÉMOIGNAGE

Après avoir vu les destructions causées par le bombardement atomique de Nagasaki, les participants japonais du "Peace Boat" ont évoqué les risques et dégâts du nucléaire tant mis en avant par les défenseurs de la centrale de Tricastin.

"Dans l'énergie, le risque zéro n'existe pas"

Après avoir vu les destructions causées par le bombardement atomique de Nagasaki, les participants japonais du "Peace Boat" ont évoqué les risques et dégâts du nucléaire tant mis en avant par les défenseurs de la centrale de Tricastin.

Le nucléaire, un risque zéro n'existe pas

Après avoir vu les destructions causées par le bombardement atomique de Nagasaki, les participants japonais du "Peace Boat" ont évoqué les risques et dégâts du nucléaire tant mis en avant par les défenseurs de la centrale de Tricastin.

